

令和 5 年度 第 2 回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録

■日 時:令和 5 年9月 12 日(火) 18時 00分～

■会 場:オンライン (Zoom)

1. 報 告 事 項

(1) 業務報告(令和 5 年 5 月～8 月)について【資料 1、2、3】

【事 務 局】資料 3 について説明を行う。4 月～8 月の中で、6 月と 8 月のボランティア依頼が増加した理由として、5 月にコロナが 2 類から 5 類になったことにより、多くの施設が 6 月にボランティアの受け入れを再開したことが大きいのではないかと。8 月は 9 月の敬老の日の特技披露の依頼が多数あった。

【委 員 長】高齢者施設の受け入れ状況を聞きたい。

【委 員 員】5 類になり、対面でのボランティア活動が開始された。ボランティアセンターからも 2 名のボランティアを紹介された。

【委 員 員】私が関わっている施設はまだ受け入れてもらえない。施設全体を見て受け入れ状況を知りたい。

【事 務 局】5 類になったことにより施設からの依頼は増えている。5 類になるまでは特技披露など複数人のボランティアの受け入れが無かったが依頼が来ている。

【委 員 長】保育園はどうか。

【委 員 員】昨年度は「夏!体験ボランティア」で大勢来てくれたが今年はいなかった。

【事 務 局】「夏!体験ボランティア」の参加者は多かったが、希望する人が少なかったのではないかと。

【委 員 長】7 月の依頼が少ないのはなぜか。

【事 務 局】6 月が急激に増えたため少なかったのではないかと。8 月も多いため波があるのではないかと。

(2) 業務予定(令和 5 年 9 月・10 月)について【資料 4】

(3) 「夏!体験ボランティア 西東京 2023」について【資料 5】

【委 員 長】「ホームページを見た。」と他市から参加した学生を見かけた。例年申し込んでいる人だったのではないかと。

【事 務 局】リピーターについては、小学生で参加した子どもが高校生くらいになって来た子もいた。

【委 員 長】小学校ではボランティア活動について話題に上がっているか。

【委 員 員】各学校によって特質がある。本校では全児童がパンジーとビオラの花を種から育て、近隣の老人ホームや保育園、幼稚園などの施設へ届けることを続けている。特にボランティアという言葉は使っていないが、人のために何かをやるということが根付き、心が育ってきている。

【副委員長】「おうちでボランティア」というのがあるが、どのような活動か聞きたい。

【事 務 局】受け入れ施設は多くは無いが、障がい者施設や高齢者施設、保育園へ、アルコール消毒の際に使用するウェスや季節ごとに施設内を飾る折り紙、子どもたちが買い物ごっこで遊べる折り紙、高齢者へ暑中見舞いなど、施設の要望を紹介し作成してもらっている。期日までに作成したものをボランティアセンターが預かり、施設へ届けている。

○事務局より、(1)～(3)について資料を用い説明を行った。

2. 審 議 事 項

- (1) 令和 5 年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録(未定稿)について【資料6】
【委 員 長】訂正がなければ確定稿とする。

3. 協 議 事 項

- (1) 令和 5 年度下半期事業予定について【資料7】
【委 員 長】総合的学習への協力とは主に何がテーマとなるのか。
【事 務 局】今年度は視覚障がい者と盲導犬、聴覚障がい者と手話、この2つが多い。
【委 員 長】12月に「軒下ふれあいバザー」が予定されているが開催できると良い。
【事 務 局】昨年度も何とかできた。今年度は新しく参加を希望する団体もあるので開催したい。
- (2) 令和 6 年度事業計画について【資料 8】
- (3) 令和 6 年度予算について【資料 9】
- (4) 西東京ボラセンの役割とめざすこと(継続検討事項)【資料 10】
【事 務 局】前回、中間支援組織の役割りについて説明し、意見をいただきたいと示した。ボランティアセンターは個人、団体、行政から大きな期待をされている。個人、団体からは運営の相談やケースを通しての支援、行政からは学校教育の中で福祉教育の分野で期待されている。ボランティアセンターが地域の中で果たしていく役割を固めていきたい。今回改めて形にした資料を作成した。
【委 員 長】ボランティアセンターの役割りと目指すことについて説明を受けたが、他にアイデアや要望があれば出して欲しい。
【事 務 局】委員の皆さんにはそれぞれの立場でボランティアセンターに求めるものを出してもらいたい。
【委 員 長】老人ホームは中学生の職場体験でも人気がない。若い人にも気軽に足を運んでもらいたいので、普段のボランティア活動者を増やしたい。また、高齢者に関わるニーズを把握し、ほっとネット、ふれまち、ゆめこらぼなどと連携し解決に結びつけていけたら良いのではないかな。

○事務局よりほっとネット、ふれまち、ゆめこらぼについて説明を行った。

- 【委 員 長】高齢者施設や保育園がボランティア募集をし、ボランティアに来た人が希望する場でイメージしたボランティア活動につながっているのか文字にして残せたら良いのではないかな。
【事 務 局】ボランティアが行っている活動内容や課題は一般市民には見えにくいので、ボランティアセンターがつなぐ役割を果たすと良いということか。今後取り組んでいきたい。
【委 員 長】ボランティアセンターには、こんなことができるボランティアがいるという情報はないのか。
【事 務 局】例えば、特技を活かしてボランティア活動を行いたい人が登録している場合、依頼を待つだけでなくボランティアセンターから施設や団体などに紹介している。ニーズに応えるだけでなくボランティア活動者の希望を叶えるために活動先を探すこともしている。
【委 員 長】一覧表になっているのか。
【事 務 局】一覧表にはなっていない。依頼を受ける際、どのような活動を希望するのかを聞き、登録者に居ない場合は公民館で活動している団体や、その他のところで声掛けし紹介につなげている。
【委 員 長】公民館は色々な団体が活動を行っていて、団体の一覧表も置いている。
【委 員 長】地域で役立てることはないかと思い、防災関係の活動を始めた。住民同士のつながりが一番大切であると思う。それをアピールするために、知ってもらうことが必要ではないか。社協のボランティアセ

ンターが、どのようなことをやっているのか、何をやろうとしているのかなどを地域の人たちに理解してもらえるのが悩みどころである。アイデアを出し合い社協にもアクションを起こしてもらいたい。

【委員長】積極的に広報をしていくということか。社協を知っている人は深く知っているが、そうでない人は知らないことが多い。広報力を上げる必要があるではないか。

【委員】ボランティア活動者を増やすために、年に１度くらいボランティア募集期間を設けるのはどうか。傾聴グループも高齢化が進んでいる。ボランティアセンターでやれないのか。

【事務局】ボランティアセンターでは毎年、活動者の発表の場として「ボランティアのつどい」を開催してきた。コロナ以前は大掛かりなイベントだったが、今回は４団体に協力してもらい体験型で行った。小規模ではあったが多数の参加者があり、団体加入にもつながった。続けていけばボランティア活動を知ってもらえるのではないかな。

【委員長】ボランティアセンターにはコーディネート機能がある。それを知ってもらうためにも広報の力が必要ではないか。

【副委員長】新しいものを生み出すためのアイデア出しはとても大変なことだ。ほっとネット、りんく、ふれまち、ゆめこらぼなど、それぞれの活動がすべてを網羅できているわけではない。抜けているのはどんなところか、どのように連携していったら良いのか、ニーズがあるのなら確認していくと活動のヒントが出てくるのではないかな。また、企業の社会的貢献で、ボランティアをしてみたいがどうしたら良いかわからない人がいて、そこに広報が届けば活動者が広がるのではないかな。夏体験ボランティアではリピーターも多かったと聞いている。体験型から一般の活動に移行していく橋渡しをしていければ、体験とは異なるその先の活動に進んでいくのではないかな。

【委員長】夏の体験ボランティアのリピーターについては「楽しかった。」「わくわくした。」という口コミの広報が大きいのではないかな。さらなる工夫や広報でボランティアセンターが中間支援組織として重要で必要であるということをアピールしていけたら良い。

【理事】夏の体験ボランティアでは都立高校の校長が生徒に積極的に声掛けをしてくれたと聞いている。田無特別支援学校の夏祭りに、田無高校の生徒が６名ほどボランティアに来てくれた。校長、副校長もあいさつに来てくれた。西東京市内には４つの都立高校がある。災害時などでも高校生の力が大いに活かせるのではないかな。ボランティアを増やす努力をする視点の一つに高校生の活用を考えてはどうか。今回の高校の話了他校で紹介すると広がっていくのではないかな。

【事務局】それぞれの立場の委員から貴重な意見をいただいた。

4. そ の 他

(1) 次回 運営委員会日程について

■日時：１月 ９日（火） １８：００～

■会場：未定

(2) そ の 他

【事務局】次回の運営委員会では予算の報告と令和６年度に向けて話をしていきたい。